名道研だより　第２３号
心輝け 子どもたち！
発　行
平成２２年３月１日
名古屋道徳教育研究会
広　報　部

１月27日（水）教育館において，名古屋市道徳研究会研究発表会が行われました！

道徳授業の思い出と願い

名古屋道徳教育研究会　会長
野立小学校長　鈴木 定夫

「こんな資料（明るい心）で授業ができるわけない。」教員１年目に発した言葉です。

そこで，私は身近なできごとを基にした話し合いをすることにしました。例えば，廊下を走っている子を週番が「廊下を走るな！」と言った。注意された子はどんなことを思うでしょう？と問います。子どもたちからは,「ごめん。」「しまった。」「何をえらそうに。」「自分だっていつも走っているじゃないか。」等，様々な考えが出され，学級のだれがどんな考え方をしているのかも分かり合える時間になりました。しかし，校内の先生から「鈴木さん，それは道徳ではなく，学級会だよ。」と言われてしまいました。

次に，自分が読んだ本で心を打たれたものを読み聞かせたり，感想を聞いたりしました。子どもたちは毎回楽しみにしてくれ，様々な感じ方や体験を話してくれました。一人の子が感じたものに共感し，共有することができるようになりました。しかし，これも「鈴木さん，それは道徳ではなく，国語だよ。」と言われてしまいました。

それからというもの，劇化や役割演技を取り入れた授業（演技を見た側と演じた側あるいは，主人公以外の側からの考えを出させやすい），紙芝居やＴＰを利用した授業（１場面を見せて発問するので焦点化しやすい），学級児童の詩や作文を利用した授業（ねらいとする価値を実感させやすい）等，あれやこれやと取り組みました。

現在は,「明るい心」の編集に携わっています。今度は,「『明るい心』以外によい資料はありませんか？」と聞かれる立場になりました。道徳授業を年間35時間確実に行うためには「明るい心」「明るい人生」の役割は大きいと思っています。研究会員だけでなく，多くの先生と一緒に名古屋の道徳教育を創り上げてきたいと思います。

名古屋市道徳研究会研究発表会

基礎研究部会　研究テーマ「授業者の思いを反映した道徳の授業づくり」

「疑似体験を取り入れた道徳の授業」「映像資料を使った道徳の授業」「子どもと保護者が共に考える道徳の授業」「保護者の考えから学ぶ道徳の授業」について，司会者が実践者に質問をする形で発表がありました。

＜実践者＞　教師が，疑似体験をさせる目的をしっかりもつことと，体験をする前と後の子どもの気持ちの違いを明確にさせることです。

＜司会者＞　星野富弘さんのように，口に鉛筆をくわえさせて字を書かせましたが，疑似体験を取り入れた授業のポイントは？

部会では,「この資料を使って，こうやって授業をすれば，子どもたちは真剣に考えるよ。」と，他の先生方に更に自信をもってお勧めできる授業にしていきたいと考えています。共感していただける先生方の参加をお待ちしています！

指導法研究部会　研究テーマ「共に生きていこうとする心を育てる道徳指導」

相手の気持ちを考えながら，共に生きていこうとする心を育てるため，資料を扱う際に，

①「自己中心的な考えをとらえ，内省している場」
②「他者の思いに目を向けている場」
③「(主人公が)自分を高めている場」

の三つの場を設定した実践の発表がありました。

低学年，中学年，高学年，中学校の４か所に別れ，それぞれの場所で工夫を凝らした発表がありました。

主人公の立場で相手の思いを想像する道徳の授業を積み重ねることで，学校生活の場面でも相手の思いを理解しようとする子どもたちの姿が見られるようになりました。

指導・助言

市教育センター　指導主事　清水克博先生より

人間の生き方の自覚を深める実践を進めていき，名古屋市の道徳をリードしていってほしい。また，実践した内容を図にして分かりやすくし，ペーパー１枚で示してほしい。

市教育委員会 指導室指導主事 佐藤佳子先生より

道徳の授業は多面的な見方があるということを教えるもの。担任以外の先生がローテーションで道徳の授業をするといった，学校全体で行う道徳教育も考えていってほしい。